

1850年創業 「漁民の利益につながる、よい漁具を」



アサヤ株式会社

会社案内



気仙沼本社	〒988-0853	宮城県気仙沼市松川前13-1	TEL: 0226-22-2800	FAX: 0226-22-5434
石巻支店	〒986-1111	宮城県石巻市鹿又中塚25	TEL: 0225-98-7870	FAX: 0225-75-2238
釜石支店	〒026-0002	岩手県釜石市大平町3-9-1	TEL: 0193-22-2410	FAX: 0193-22-2455
宮古支店	〒027-0096	岩手県宮古市崎鍬ヶ崎第11地割10-1	TEL: 0193-62-6234	FAX: 0193-63-3046
階上工場	〒988-0213	宮城県気仙沼市最知南最知304-7	TEL: 0226-27-3008	FAX: 0226-27-2091
越喜来工場	〒022-0101	岩手県大船渡市三陸町越喜来烏頭26-6	TEL: 0192-44-3265	FAX: 0192-44-2130

アサヤについて

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圈としています。
 代々、「漁民の利益につながる、よい漁具を」の理念を守ってきました。



「針金」の語源を作った
 二代目・廣野太兵衛

のれん百年

27 明神は 山本守

〈漁具類の移り変わり〉

◇昔の沿岸漁民は釣漁が中心。釣糸は麻をかたまりをつくり、釣針は鉄のかたまりを買って敷漁屋でつくってもらった。

◇明治の初期、東京の鉄鋼問屋が粗い鉄線を扱うようになり、便利になる。釣糸も釣針も出回る。

◇昭和20年代にはオロン2号やビニロンの釣糸が多用されるようになった。

◇釣針を使うようになったのは明治の中ごろ。

「魚具商」

気仙沼市八日町 麻屋商店

「麻屋」(二代目廣野太兵衛)

輸入鉄線大当たり
 「漁民の利益」いまも家訓に

「漁具の移り変わり」

「針金」の語源を作った二代目・廣野太兵衛

大正初期に動力船...
 このころは釣糸も鉄線も...
 現存 階上工場

1971年12月2日 毎日新聞 宮城版 14面

ビジネスモデル

商品

繊維 (ロープ・網・糸)



薬品 (防汚剤・塗料)



機械 (漁船用・養殖用)



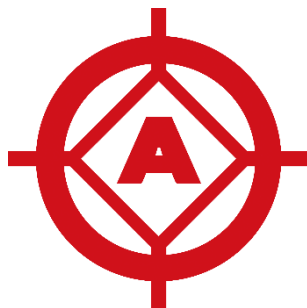
施設 (フロート・アンカー・土俵)



備品 (カゴ・金物・プラスチック)



仕入



販売



顧客

漁船漁業



養殖漁業



定置漁業

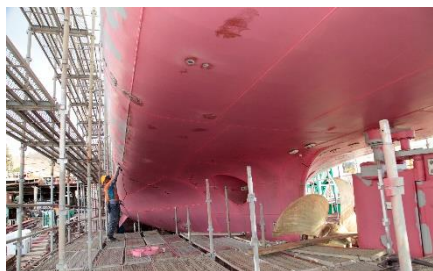


内製作業

鉄工 (漁撈機械の修理)



塗装 (船舶の塗装)



染網 (定置網の防汚加工)



漁網 (定置網の仕立て)



会社概要

社名	アサヤ株式会社
所在地	〒988-0853 宮城県気仙沼市松川前13-1 TEL: 0226-22-4300 / FAX: 0226-22-4302
ホームページ	http://www.asaya.co.jp/
代表者	代表取締役会長 廣野 浩 代表取締役社長 廣野 一誠
資本金	50,000,000円
従業員数	86名（2021年11月現在、常勤役員・子会社含む）
創業	1850年（嘉永3年）
法人設立	1948年5月1日 「株式会社麻屋商店」を設立 1988年6月1日 「アサヤ株式会社」に社名変更
事業内容	<ul style="list-style-type: none">• 漁具・船具・漁業資材・漁撈機械の販売• 漁撈機械の修理・整備• 油圧ホースの製作• 救命筏の整備• 船舶の塗装• 水中ロボットでの漁場調査• 漁網の仕立て• 漁網の防汚加工・染網

アサヤのロゴマークは、1988年に社名変更をした際に、5代目社長の廣野甚吉がデザインしました。



アサヤの英字表記の「A」、主要製品であるロープの円形、同じく主要製品である網の菱形をモチーフとしています。



顧客

漁船漁業

漁船を主体とした漁業を営んでいる顧客。気仙沼の遠洋・近海マグロ延縄が大半を占めている。他には、メカジキ突きん棒、イサダ船びき網、サケ縄、サケ刺し網などがある。



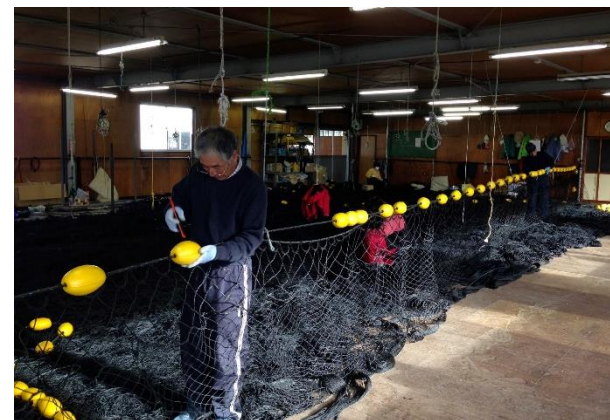
養殖漁業

様々な海面養殖漁業を営んでいる顧客。ホタテ・カキ・ワカメ・コンブ・ホヤといった貝類・海藻類の無給餌養殖が主流だが、宮城県中部ではギンザケの養殖も盛んである。

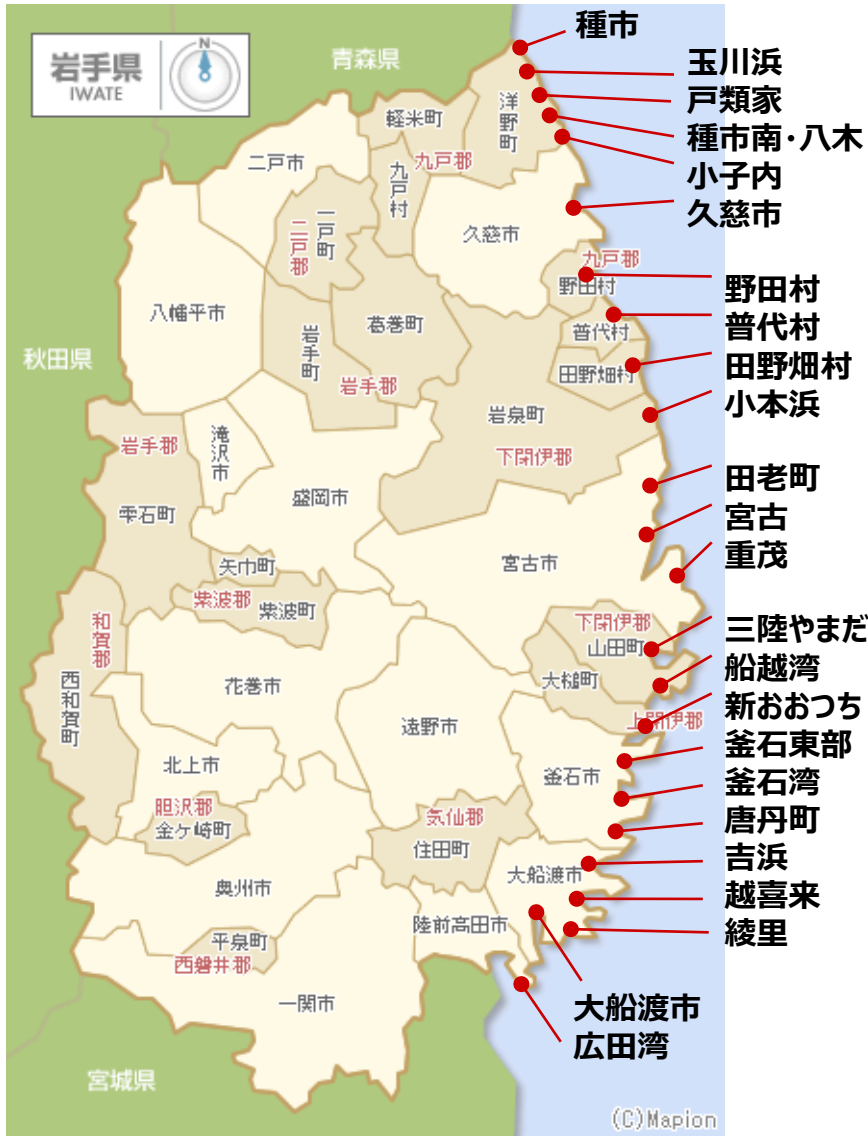


定置漁業

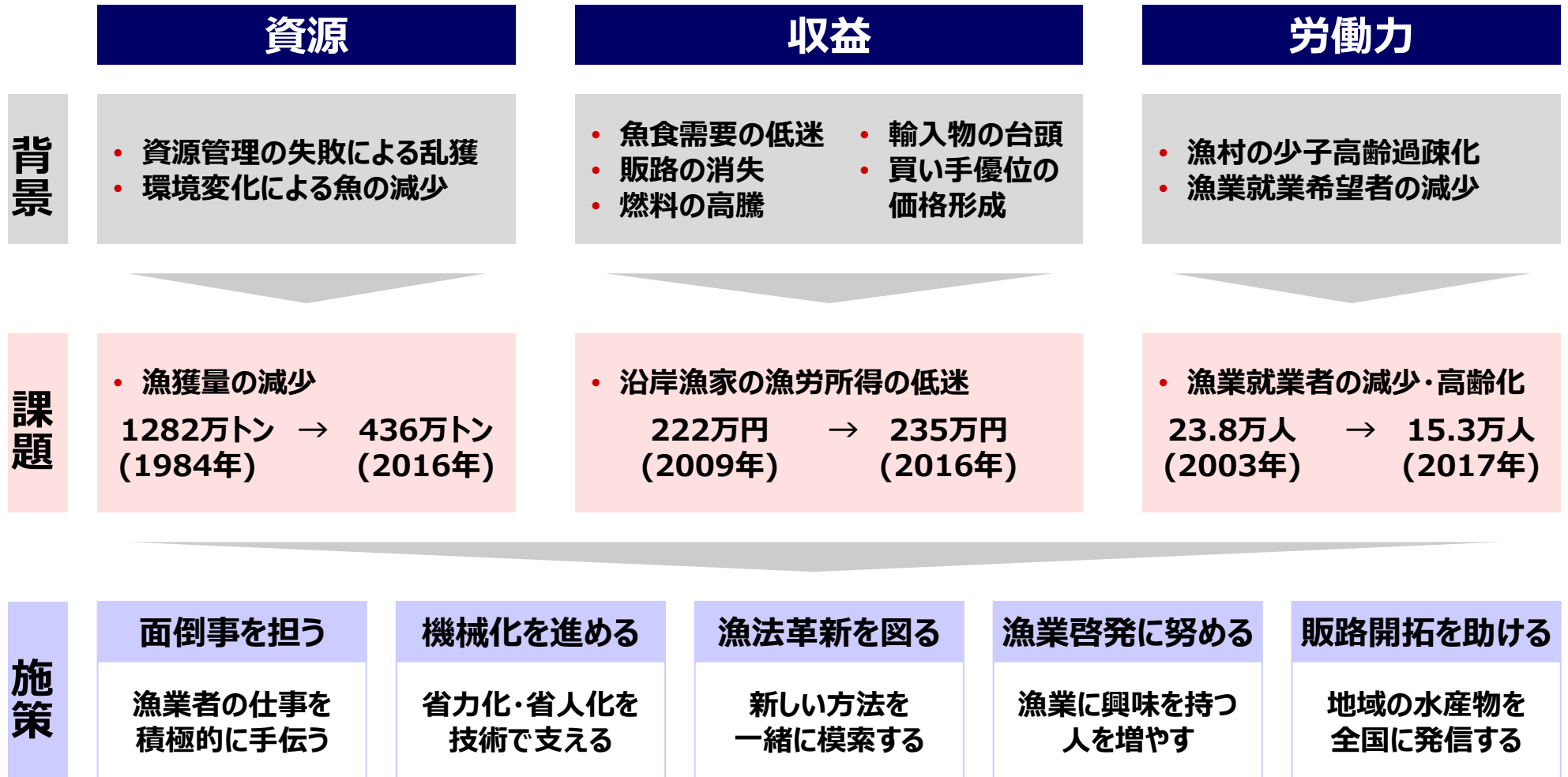
定置網を使った漁業を営んでいる顧客。定置網には都道府県知事の免許が必要で、5年毎に免許の更新がある。岩手県は漁協の経営体が多く、宮城県は個人の経営体が多い。



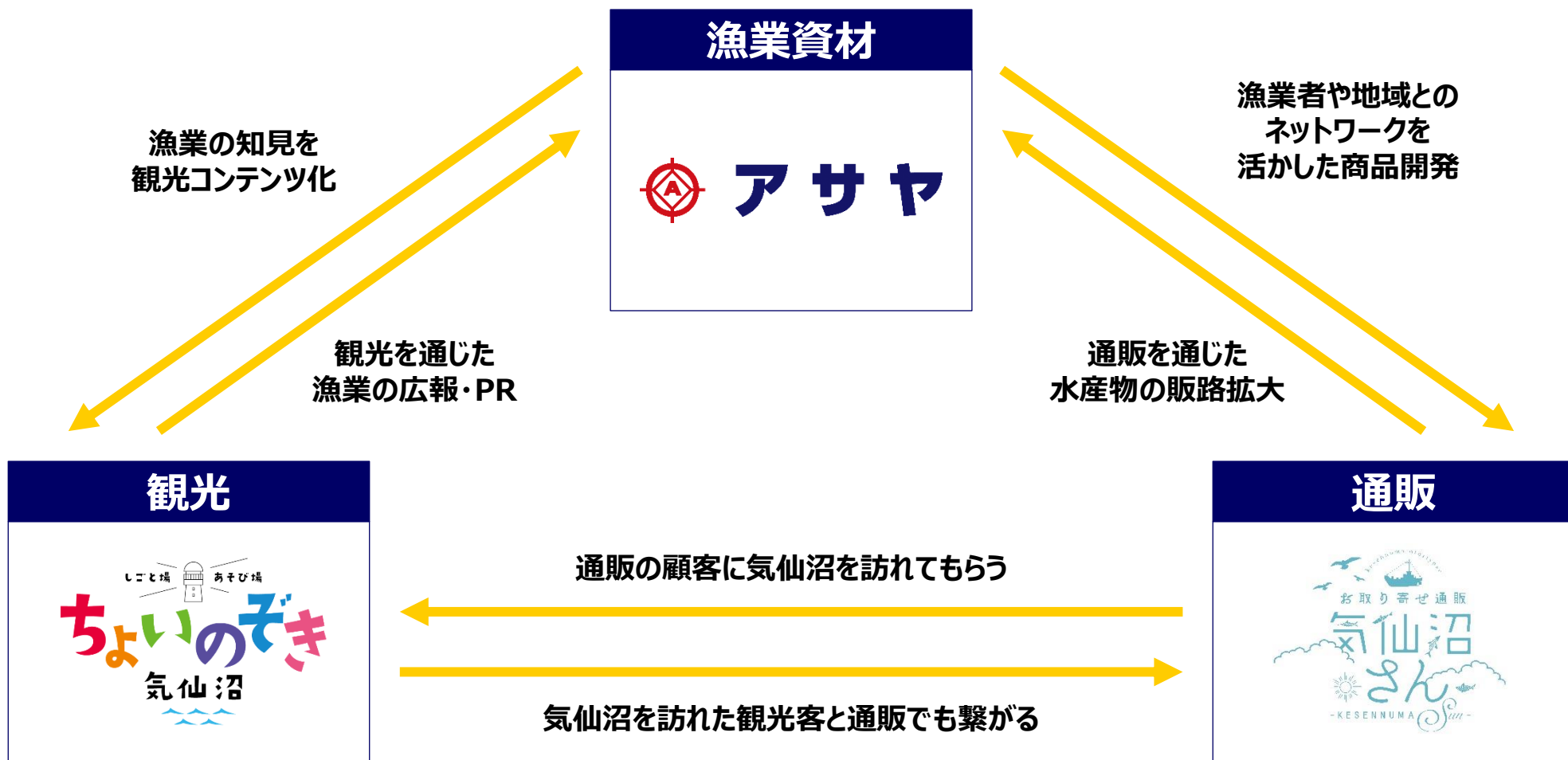
商圈 (岩手県・宮城県)



三陸漁業が直面する「資源」「収益」「労働力」の課題解決を目指します。



「漁業資材」「観光」「通販」の三本柱で漁業・地域への貢献を目指します。



経営理念・行動規範

■ 漁民の利益につながる、よい漁具を

アサヤは1850年創業の漁具屋で、三陸全域を商圏としています。代々、「**漁民の利益につながる、よい漁具を**」の理念を守り、漁業者の役に立つ資材や機械を提供してきました。

釣糸を作るための麻の買い付けから始まったアサヤの商売は、釣針、ロープ、網、機械、と時代に合わせて遷り変わってきましたが、本質は創業以来一貫して変わらず、**三陸の漁業への貢献です**。

漁業者を取り巻く環境がどれだけ厳しくなっても、アサヤはこの姿勢を貫き通します。たとえ、**他の業者が諦めたとしても、アサヤだけは最後まで諦めずに、三陸の漁業を守ります**。三陸の漁業者にとっての真のパートナー、それがアサヤの目指す姿です。

【行動規範】

- 1. 漁業者目線**：漁業者と密に接し、喜怒哀楽を共にする。
- 2. 広い視野**：様々な関係者を巻き込み、柔軟に発想する。
- 3. 諦めない**：必ず解決する執念を持ち、試行錯誤を重ねる。

■ 社員が主役になれる仕事

アサヤの**仕事の主役は社員**です。お客様のために情熱を燃やす社員なくして、アサヤの仕事は成り立ちません。**アサヤ最大の財産は社員**であり、主役に相応しい仕事創りは最重要事項です。

また、**仕事は人生の大半を費やす活動**です。楽しさも充実感もなく、ただ時間を切り売りし、食い扶持を稼ぐだけの寂しい仕事では、主役を演じていただく社員にとって、貴重な人生を費やす価値はありません。

仕事に**楽しさと充実感**を見出し、仲間と**信頼関係**を築き、**切磋琢磨**しながら成長し、**物心両面で報われる**。人生を振り返ったときに、「**この仕事を選んでよかった**」と思える会社が理想です。

【行動規範】

- 1. 好き**：好きな仕事を楽しみ、自ら学んで得意を磨く。
- 2. 得意**：得意を活かして喜ばれ、さらに仕事を好きになる。
- 3. 裁量**：目的を見据え、自らの裁量で創意工夫する。
- 4. 評価**：周りの評価を受入れ、成長して期待を満たす。

経営理念・行動規範

■ 三方よしの三百年企業

アサヤは2020年に創業170年を迎えました。環境に合わせて自らを変革し、世代を超えてバトンを引き継げれば、**2050年には200年、2150年には300年**を数えることができます。

長い歴史を刻むためにはバランスの取れた在り方が必要で、**近江商人の「三方よし」**にならい、「買い手よし、売り手よし、世間よし」の発想で、**地域から信頼される行動の蓄積**が不可欠です。

会社としての信頼を積み重ねれば、お客様から大きな仕事を任される、取引先・行政から協力・応援が得られる、子供世代から就職先に選ばれる、と**巡り巡って自分たちへの追い風**になります。この姿勢を、**社風・文化として先輩から後輩へ伝承**し、200年、300年と歴史を刻んでいける会社を目指します。

【行動規範】

- 1. 挨拶**：目を見て、気持ちよく挨拶し、相手に好かれる。
- 2. 環境整備**：物を整理整頓し、職場を美しく保つ。
- 3. 儉約**：華美を求めず、限られた資源で創意工夫する。
- 4. 地域貢献**：頼まれ事は試され事。役割は積極的に担う。

取材・受賞歴

江戸末期の一八五〇年を付けたり、麻の網を使うに、初代の広野太兵衛が魚を売ったと聞いて、麻を中仙沼市八日町の旧本社で麻心に売った漁員を売ったの商売を始めた「広野屋」のため「麻屋」と呼ばれるようになった。当時は麻糸に針うになった。

アサヤ

(気仙沼市)



広野 浩さん



江戸後期から150年以上も続く漁具船具の老舗「アサヤ」

社員主役に 漁具を商う

に、同市八日町から現在の魚市場前に本社を移転。本社のほか石巻、釜石、宮古に支店、盛岡に営業所がある。

六十三人の社員がモットーとして「漁民の利益につながる、よりよい漁具を商う」を心掛けている。広野社長は「百五十年以上も続けているが、会社の主役は社員。これからの良い漁具や船員を抜いながら、漁業家のお手伝いをしていきたい」と話していた。

2001年2月23日 気仙沼かほく 4面

屋号ものがたり

22



め、船員も扱ふようになった。現在は漁網、ロープ、漁具、船員、養殖資材などを販売している。

一九八八年六月に五代目の広野甚吉社長（故人）が「麻屋商店」から現在の「アサヤ」に社名変更し「アサヤ」の「A」と網とロープをイメージしたマークをつくった。現在の広野浩社長（四代）が、六代目社長に就任した後の一九九年十月

歩み

9月

気仙沼港

「これは何に使って漁具でしよう」。気仙沼市の漁具販売会社「アサヤ」の取締役・廣野一誠さん（左）は重さ3・5kgのステンレス製のハート形の網を掲げた。首をひねって見ると、同じ会社の倉庫などを回ると「風変わったアサヤ」に市内外から参加した約10人。正解は「ツナショッカー」。



「ツナショッカー」の使い方をツアー参加者に見せる廣野さん（中央）（5日）

漁具屋帰ってきた跡取り

「はえ、網漁でマダロに電気ショックを与え、動きを抑える道具だ。予想もつかない言葉に参加者は「どう使うの?」と興味津々。魚体を引く際の手加減など漁具関係者にはおなじみの道具も参加者の目には珍しく、大盛り上がり。タゴ船を使った漁も見学した。ツアアは5日、被災地の漁業再開に心を砕く中、被災したアサヤの代表社員・広野浩さん（左）は、被災地の仲間と「私ども年配までは、漁具含む営業権限が所全てが全

壊した。力にならなければ。子供が生まれるまでしたため時間はかかったが、昨年12月に戻ってきた。

社内の情報共有をパソコン上でできるようにする。作業効率の向上に力を注ぎ、一方で、「いつものやち」の一声で漁師に必要な漁具を届ける現場担当者から知識を吸収している。技術者の高齢化や漁業の先細りなど課題は多いが、「経験とアイデアで、被災した街や会社を盛り上げていきたい」。ツアアはその第一歩だ。今月26日には第2弾を開く。（安田龍郎、9日おわり）

2015年9月16日 読売新聞 宮城版 35面

取材・受賞歴



2018年2月6日 宮城県 観光王国みやぎおもてなし大賞



2018年2月9日 復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰

【こだわりの逸品を全国展開 特産品EC】第188回 気仙沼名産品専門ECサイト<気仙沼さん>/地域一丸となって気仙沼の魅力を全国へ発信

こだわりの逸品 特産品EC

2017/10/13 日本ネット経済新聞 連載記事



宮城県気仙沼市の魅力を全国に発信するECサイトとして多くのメーカーの商品を取り扱い、人気を集めてきた「気仙沼さん」。2016年3月に休店となったが、同年11月に復活。この店の思いを受け継ぎ、以前の状態に戻すために行ってきたこと、新たな販売展開などについて、運営を引き継いだ廣野一誠氏に話を聞いた。

●きっかけ・特徴

以前はECサイトの利用者だった廣野さん。休店前の運営会社と知り合いだったことから、ネット通販事業を引き継ぐ

ことになった。

「『気仙沼さん』が50社以上のメーカーの商品を扱っていたこと、まだ扱っていないメーカーが気仙沼には何十社もあることを聞いて、驚きました。開設か

2017年10月13日 日本ネット経済新聞

取材・受賞歴



© 2018/09/25 中小企業

未来を描くストーリーは、創業時の理念が教えてくれた 江戸時代から三陸の漁民の利益に貢献する「アサヤ株式会社」

[PR] エヌエヌ生命保険株式会社

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた三陸の漁業。それを立て直そうと奮闘しているのが、宮城県気仙沼市で漁具の製造・販売などを営む、1850年創業の老舗「アサヤ株式会社」です。中小企業の経営者から、事業にかける思いや、困難を乗り越えたエピソードなどを寄せてもらうコンテスト「『経営の数だけ答えがある』ストーリー審査会」（エヌエヌ生命保険株式会社主催）でグランプリに輝いた同社を、審査委員長を務めた元フジテレビアナウンサーの木佐彩子さんが訪ね、専務取締役の廣野一誠（ひろの・いっせい）さんに、ストーリーに込めた思いを聞きました。

2018年7月10日 日刊水産経済新聞 「2018日本BtoB広告賞」企業カタログ部門 金賞受賞

2018年9月25日 朝日新聞デジタル 「経営の数だけ答えがある」コンテスト グランプリ受賞

気仙沼アサヤのカタログがB to B広告賞「金賞」



2018年7月10日

漁業資材販売のアサヤ(株)（気仙沼市、廣野浩社長）が制作した「江戸時代から続く漁具屋と漁師の物語。」が「2018日本BtoB広告賞」（日本BtoB広告協会主催）の企業カタログ部門で最高賞の金賞を受賞した。169年続く漁業者と会社の「海が鍛えた信頼関係」をつくり、海と人とのつながりを改めて問い直すメッセージと高く評価された。

「地球の裏側でマグロを追う漁師がいる」で始まり、沖で網を戻す手掛かりを探し、浜で漁具を調整し、船の塗装をミクロン単位で仕上げる「営業担当・職人がいる会社」と書き出す巻頭文。「大西洋・カナリア諸島で機器トラブル」との連絡に直ちに応えた漁船部門、「東日本大震災後、ホタテ養殖を決断した」漁業者を支えた養殖部門、があるなどと会社組織を紹介している。

同社をよく知る人のひとと言と顔写真、1850（嘉永3）年の創業から江戸、明治、大正、昭和、平成、そして震災を乗り越え、現在に至る老舗漁具屋の歴史を、インタビューを交え振り返っている。

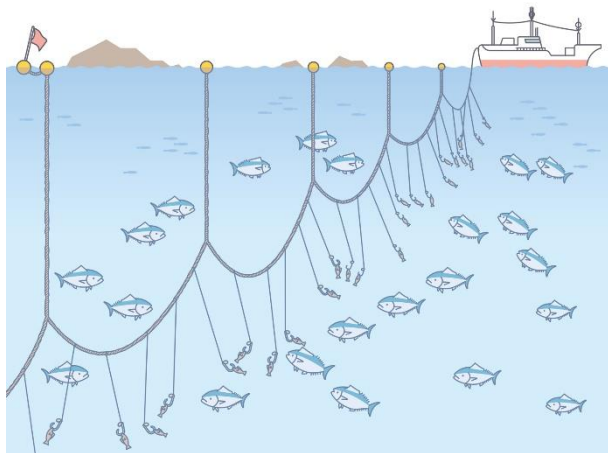
「海に立ち向かう漁師を支える」という廣野社長のあいさつ、社員総出の顔写真入りの一問一答が、未来に向けた力強いメッセージを発信。カラー写真満載。「人の顔が見える企業物語」と評価された。[...]



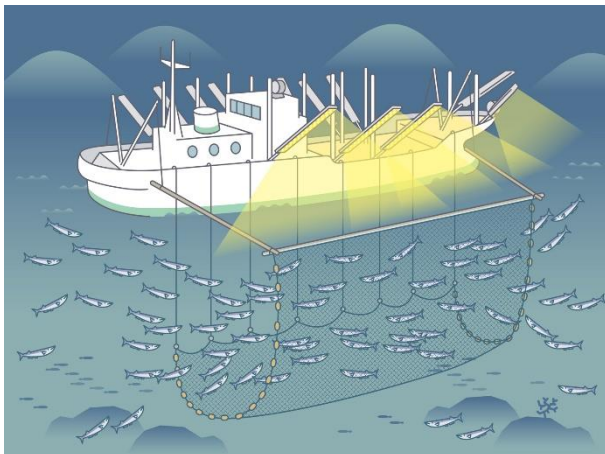
廣野社長（中央）とトロフィーを持つ廣野専務（左）、
写真を撮った藤野常務

漁法紹介

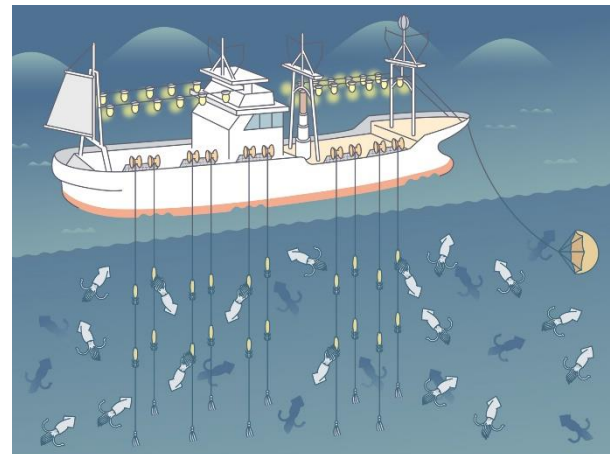
【延縄】 100～150kmの幹縄に、3～4千本の枝縄を付けて、マグロ・メカジキ等を獲る。



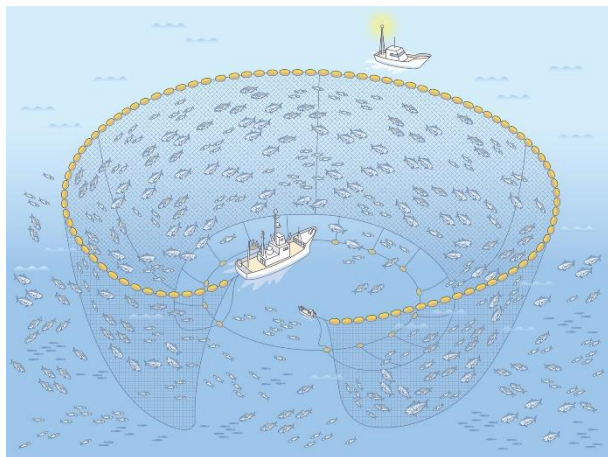
【サンマ棒受網】 網を沈めておき、集魚灯でサンマを集めた後、網を引き上げて獲る。



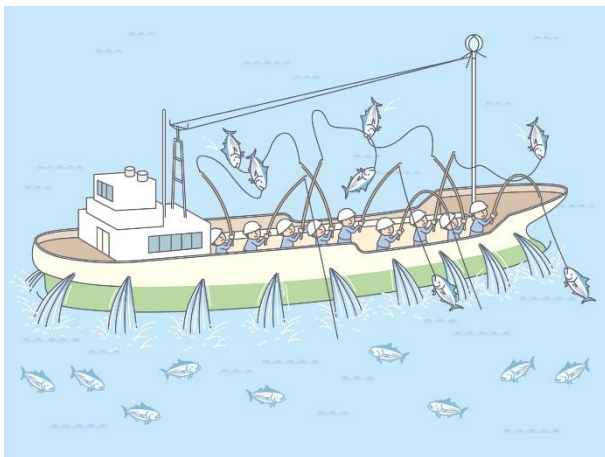
【イカ釣り】 集魚灯でイカをおびき寄せ、自動イカ釣り機でスルメイカ・ヤリイカなどを獲る。



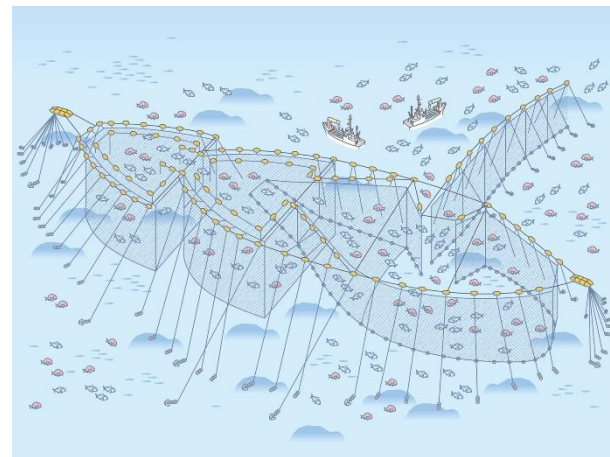
【旋網】 大型の網を漁船で円形に広げ、マグロ・カツオ・サバ等の魚群を包み込んで獲る。



【一本釣り】 カツオ等の魚群を見つけ出し、イワシ等の餌でおびき寄せて釣る。

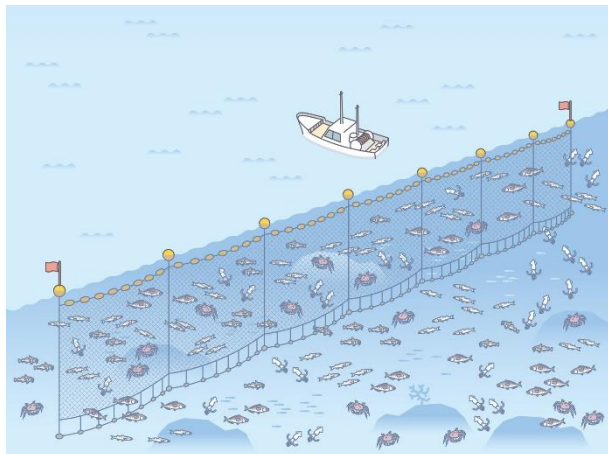


【定置網】 垣網で魚を遮り、昇網で誘導し、箱網で捕まえる。サケ・イワシ・サバ等を獲る。

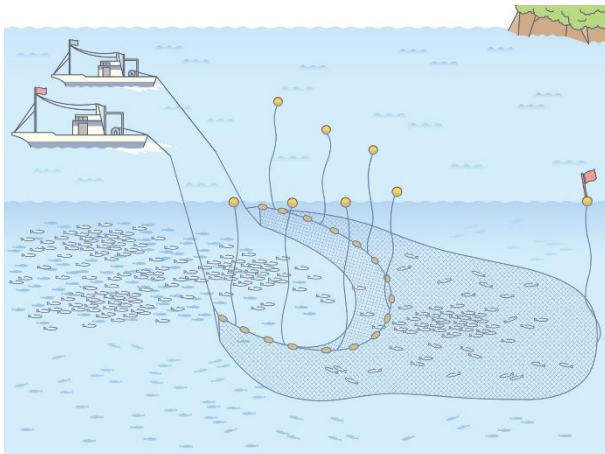


漁法紹介

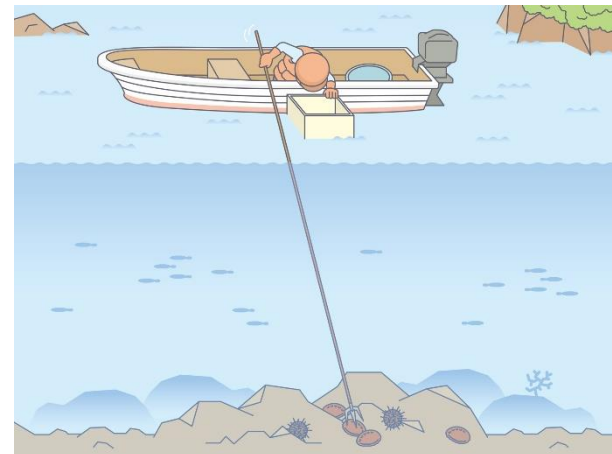
【刺し網】 魚の通り道に網を仕掛け、サケ・タラ・カレイ等を絡ませて獲る。



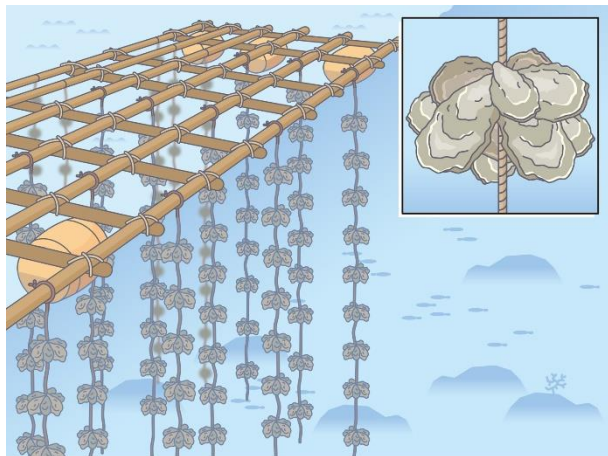
【船曳網】 袋状になった網を1～2艘の漁船で引いて、イサダ等を獲る。



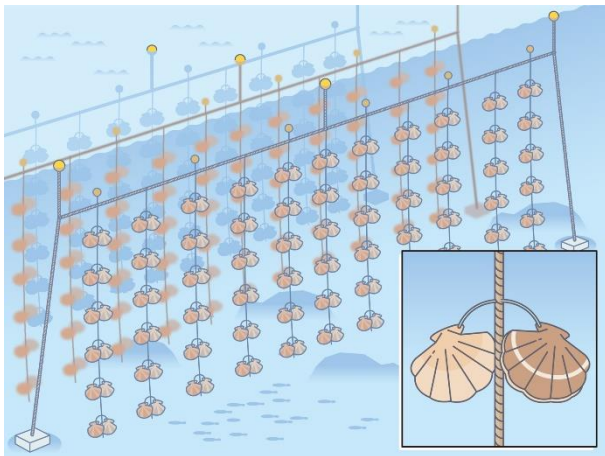
【採貝・採藻】 カマ・モリ等の道具を使って、船上から人の手でアワビ・ウニ・海藻類を採る。



【カキ・ホヤ養殖】 カキ・ホヤの稚貝が付いた種をロープに挟み、筏から吊るして育てる。



【ホタテ養殖】 ロープにアゲピンでホタテを括り、延縄から吊るして育てる。筏の場合もある。



【ワカメ・コンブ養殖】 胞子を着けた種糸をロープに取り付け、筏・延縄に吊るして育てる。

